

修士論文（要旨）

2017年1月

定年就農者の農業経営安定までのプロセス

指導 杉澤 秀博 教授

老年学研究科

老年学専攻

213J6006

殿原 慶三

Master's Thesis(Abstract)

January 2017

The Process of Achieving Business Stability by Retirees-Turned-Farmers

Keizo Tonohara

213J6006

Master's Program in Gerontology

Graduate School of Gerontology

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor:Hidehiro Sugisawa

目次

目的

方法

結果

結論

参考文献

要旨

目的 我が国の農業を担う基幹的農業従事者は、著しい高齢化が進行するとともにその人数は大幅に減少している。これに対し、農林水産省や団体は各種の担い手不足対策を実施している。それを受けて、毎年5万人の新規就農者がいるが、60歳以上は3万人で6割を占めている。ところが、担い手不足対策は、青年層に比重が置かれている。そこで、本研究では、定年退職後に新たに農業を始める中高年齢層就農者に焦点をあて、就農後、経営が安定し、農業に自信を持って取り組むまでのプロセスを解明する。

方法 分析対象者は、面接調査で得られた1名と二次資料からの4例、計5例である。調査項目は、①就農を決断してから現在に至った経過、②途中にあった課題と対応方法、③支援やアドバイス、④目標の達成度と満足感、であった。分析は修正版グラウンデッドセオリーアプローチを用いて行った。

結果 10の概念と4つのカテゴリーが生成された。4つのカテゴリーは「顧客を意識した商品を作る」「相応しい販売方法を見出す」「今の環境にやりがいを実感する」「農業経営を下支えする資源」であった。以上4つのカテゴリーの関係は、次のようであった。定年後、新規に就農した人は、漫然と農作物を作るのではなく、「顧客を意識した商品を作る」ことにチャレンジし、できた自分の商品に適合する「相応しい販売方法を見出す」。同時に、商品を作り、販売方法開拓することで「今の環境にやりがいを実感する」。「農業経営を下支えする資源」は、技術的・経済的・精神的な支えとして機能し、経営的に安定し、継続への意欲がもてる段階にたどり着いた。

結論 本研究では、定年後に就農する農業者が、農業の経営を安定させ、継続意欲をもつためには、第1に、「顧客を意識した商品を作る」「相応しい販売方法を見出す」「今の環境にやりがいを実感する」「農業経営を下支えする」の4つの要件を合わせて備えることが重要であることが示唆された。第2に、地元住民との軋轢の調整が就農継続に重要であるとの指摘があるが、本研究では、このような概念・カテゴリーは生成されなかった。これは、分析対象者が職住を地域的に分離させており、農村地域の住民との私生活上の交流が少ないことが影響していると考えられた。第3に、「顧客を意識した商品を作る」の中で、家族の役割、中でも女性配偶者の役割が重要であることを示した概念が生成された。これは、顧客ニーズの把握という点で重要であることを意味していた。第4に、付加価値を理解してもらえようような販売ルートとして、直売所、インターネットが選択されていることが示唆された。第5に、経済的な目標設定のみが、農業経営の目標ではなく、農業を通じた自己実現、安全な食づくりという意識が「主体性」「創造性」を生み出すこと、そのことが付加価値のついた商品生産とその市場化につながり、経営的な安定へ結びついたことが示唆された。第6に年金収入で生計が安定していることが農業経営を安定させるためのつなぎとして大きな役割を果たしていたことが示唆された。

参考文献

- 本田恭子「都市住民の農村への移住に対する中山間地住民の受け入れ条件」『農林業問題研究』第 183 号、2011 年.
- 神山安雄『定年就農』素朴社、2016 年.
- 木下康仁『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践』弘文堂、2003 年.
- 中山琢夫「多品種少量栽培型直売農家の経営分析」『農林業問題研究』第 190 号、2013 年
- 農林水産省『平成 27 年度 食料・農業・農村白書』、2016 年.
- 農林水産省「平成 27 年新規就農者調査」『農林水産省統計』農林水産省大臣官房部、2016 年.
- 農林水産省『平成 28 年度 新規就農・経営継承総合支援事業実施要綱』、2016 年.
- 澤田守「新規就農者の農業研修の現状と課題」『農業経営研究』第 41 号、2003 年.
- 澤田守『就農ルート多様化の展開論理』農林統計協会、2003 年.
- 澤田守「東北地方における高齢者就農の特徴と課題」『東北農業研究』第 58 号、2005 年.
- 島義史「イチゴ作新規参入者の成長プロセス」『農業経営研究』第 142 号、2009 年.
- 島義史「新規参入者の受け入れにおける地域の農家の支援参加に向けた課題」『農林業問題研究』第 183 号、2011 年.
- 島義史『新規農業参入者の経営確立と支援方策』農林統計協会、2014 年.
- 杉浦裕二「高齢就農者の健康特性から見た健康づくりのための農業の可能性「健康日本 21」
地方健康増進計画の策定へ向けた基礎調査結果を基にして」『農村計画学会誌』第 26 卷、
2007 年
- 高津英俊「農業新規参入者へのメンタリング・プログラムの実態と機能に関する質的分析」
『農業問題研究』第 48 号(1)、2012 年.
- 全国農業会議所全国新規就農相談センター「新規就農者の就農実態に関する調査結果－平成 25 年度－」、2014 年.